

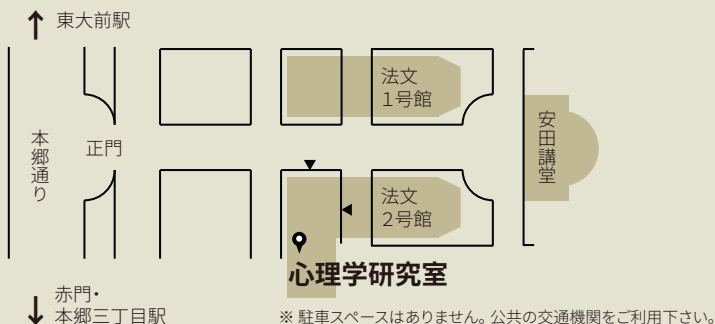
東京大学には、心理学の研究室が多数あります。当研究室は、心理学のあまたある分野の中でも、基礎心理学を志向した研究室です。当研究室の他に、文学部・人文社会系研究科には**社会心理学研究室**があります。教育学部・教育学研究科には**教育心理学研究室**や**臨床心理学研究室**が、駒場の教養学部・総合文化研究科には**認知行動科学研究室**があります。このほか、情報学環・医学部・工学部などでも、心理学に関係する研究が行なわれています。詳しくは、それぞれのホームページ等をご覧ください。

アクセス

東京メトロ丸ノ内線・都営大江戸線 本郷三丁目駅より 徒歩12分

東京メトロ南北線 東大前駅より 徒歩12分

東京大学本郷キャンパス法文2号館 1階 2111号室



大学院入試(修士課程・博士課程)について

日程や募集要項については、人文社会系研究科のホームページ(<http://www.L.u-tokyo.ac.jp>)をご覧ください。大学院入試の手続きに関することは、人文社会系研究科大学院係(電話 03-5841-3710 / 電子メール in@L.u-tokyo.ac.jp)にお問い合わせください。例年、大学院入試説明会を開催しています。開催日程等は上記の人文社会系研究科ホームページでご確認ください。

前期課程(駒場)からの進学について

例年、駒場で前期課程学生を対象とした文学部ガイダンスが開催されています。詳しくは、文学部ホームページ(<http://www.L.u-tokyo.ac.jp>)などでご確認ください。

所蔵資料(書籍等)の利用を希望される方

東京大学付属図書館ホームページ(<http://lib.u-tokyo.ac.jp>)で資料の所蔵の有無と利用方法をご確認下さい。資料の取り寄せ(複写・原本)については、ご自身の所属機関の図書館・室にご相談ください。

東京大学文学部・大学院人文社会系研究科

心理学研究室

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

tel 03-5841-3861 (平日10~17時)

fax 03-5841-8969

e-mail shinri@L.u-tokyo.ac.jp

Department of Psychology

Graduate School of Humanities and Sociology
The University of Tokyo

7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo

113-0033 Japan

tel +81-3-5841-3861

fax +81-3-5841-8969

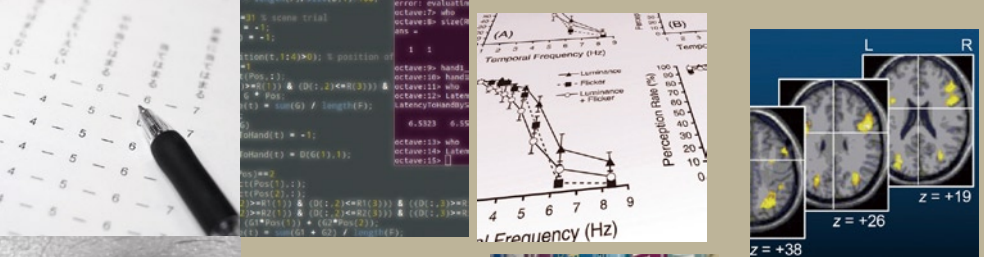
e-mail shinri@L.u-tokyo.ac.jp

心について、科学的に考えてみたこと、ありますか？

東京大学文学部・大学院人文社会系研究科

心理学研究室





心のふしぎ。脳の驚異。人間という謎。

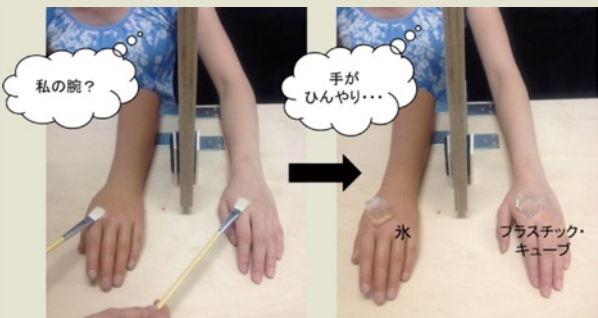


私たち東京大学心理学研究室は、1903年に設立された日本最初の心理学研究室です。100年以上にわたって心の科学研究にとりくみ、世界最先端の研究成果をあげながら、日本の基礎心理学をリードしてきました。

人類最後の、そして最大のフロンティアとも言われる、心と脳。そのしきみを科学的に理解することは、現代のテクノロジーをもってしてもきわめて難しい課題です。永遠に解けない謎かも知れません。私たちはこれからも根気よく、一步一步実証的に、心に挑みつけます。100年後、1000年後の人類のために。

見た目だけで、温度感覚が左右される

氷を見ただけで、実際には氷に触ってなくても冷たさが知覚されていることを実証



炎の写真を見れば熱さを、南極の写真を見れば涼しさを感じるでしょうか？このような素朴な疑問は心理学でも古くから検討されてきましたが、見た目が温度感覚に実際に影響することは確認されていませんでした。それは、体に触れている物体の温度を変えずに、見た目だけを変えることが難しかったからです。しかし、作り物の手を自分の手と錯覚するラバーハンド錯覚という現象を利用すると、これが可能になります。自分の手だと錯覚している作り物の手(ラバーハンド)に氷が触れると、本物の手に同時に触れているプラスチック・キューブが冷たくなったと報告されました。温度感覚は見た目に影響を受けているのです。

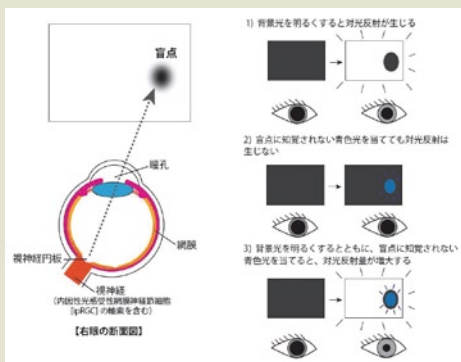
(横澤一彦教授と、学部学生松島由佳、大学院生金谷祥子による共同研究)

見えない光が、瞳を動かす

盲点の内側に光を当てると瞳孔反射の量が増えることを発見

私たちの眼の網膜には、光を感じる視細胞が約1億個あり、これに光が当たるとその情報が脳に伝えられ、光を認識します。ところが、網膜には視細胞がない場所があり、ここに光が当たっても私たちにそれは見えません。つまり視野の一部には、光があっても認識できない小さな領域(盲点)があるのです。さて、眼には瞳孔があり、広がったり縮まったりして網膜に届く光の量を調節しています。眼に光が当たると、瞳孔が縮まる反応が起きます。盲点だけに光を当てても、この反応は起きません。ところが、盲点に青や白など短い波長を含む光を当てながら、同時に網膜の別の場所に光を当てると、瞳孔が縮まる反応が強まることがわかりました。盲点にある光は見えませんが、実は私たちに影響を与えているのです。

(村上都也准教授による、宮本健太郎日本学術振興会特別研究員(PD)との共同研究)



Research Education

研究

知覚・注意・記憶・思考・アクションプランニングなどの人間の精神現象を、心理物理学的手法や脳科学的手法、認知科学的手法により研究しています。心理学にはさまざまな分野がありますが、当研究室は其中でも特に、知覚や認知の過程を実証的実験によって明らかにする基礎研究に中心を置いています。

心理学研究室には教授・准教授・助教の教員のほか、研究員、大学院生、学部学生、研究生ら総勢80名ほどが所属し、それぞれ研究活動を行なっています。教授・准教授はPIとしてラボを主宰し、研究員や学生はそれぞれのラボに所属しています。

教員や研究員、大学院生は国内外の関係学会に所属して活動し、学会発表や研究論文などの形で研究成果を発信しています。当研究室の研究成果は高いインパクトファクターの国際論文誌に掲載され、多くの研究論文で引用されています。シンポジウム等で特別講演を依頼されることも多く、東京大学の他研究科や他大学・研究所とも交流があり、共同研究も活発に行われています。

教育

心理学研究室には、毎年、駒場の教養学部前期課程から25名程度の学生が進学します。多くは文科III類からの進学ですが、理科からの進学も珍しくありません。

学部3・4年次には、演習や講義で幅広い知識を身につけるとともに、実験演習で数々の実験を行なってレポートを書き、実験機器の操作方法やデータ解析方法などを学びます。最終年次には卒業論文研究に取り組みます。教員の指導の下でオリジナルの実験研究を行ない、論文にまとめ、卒業論文発表会で発表を行ないます。

卒業生は多くが就職しますが、1~2割ほどは大学院に進学し、当研究室もしくは学内外の他研究室の大学院生になっています。就職先はマスコミ・金融・商社・製造業・官公庁など、きわめて多彩です。

大学院教育では、学内外の研究設備を活用する機会や、国内外の研究者との研究交流の機会を促進し、指導体制の充実を図っています。毎年、数名が博士(心理学)の学位を得ています。修了生の多くは研究者や大学教員をめざし、活躍しています。

最近の研究成果から